

科目名	東アジア文化論特講	担当者	シミズ 清水 トオル 享	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>多民族国家である中国には漢民族と多様な「少数民族」が居住している。文化人類学はフィールドを出発点として、この中国のさまざまな民族の文化や社会を、多角的な視点から分析研究を進めてきた。本特講ではまず、こうした文化人類学による中国の諸民族の研究がいかになされてきたのか考察する。そして、多くの民族が交錯する雲南省を取り上げ、そのさまざまな民族の歴史の変遷と多様な文化や社会の特徴について考察を進め、理解を深めたい。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 文化人類学がどのように中国の諸民族を研究考察して来たのか。その全体像と中国における文化人類学研究の特徴について把握する。また中国のなかでも、漢民族と「少数民族」が居住する複雑な地域である雲南の歴史、文化、社会の状況について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】“知識・解釈” 本科目を学修することを通じて、自ら学び、世界の現状を理解し、それを述べる力を身につけるとともに、自ら考えて、問題を発見し、その問題を解決し、省察力をもって、説明できるようにする。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 レポート1本あたり45時間(教材の学修:20時間、レポート執筆:10時間、レポート推敲と最終稿完成15時間、教員の添削指導を含む)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング→図書館等を利用し、参考文献を調査してレポートを作成する調査学習。調査学習。基本教材の精読の上、自分の関心のあるテーマを選び、学習を深める。さらに関連文献を参照しながら、この関心のあるテーマに沿ってレポートを作成する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 テーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿など、段階的に担当者とやり取りを進めながらレポートを作成する。レポート1本につき教材学修に15時間、レポート執筆に15時間、教員の添削指導を含めたレポート添削に15時間をかけることを目安とする。</p>		
スケジュール	<p>前期は基本教材1のレポート課題2編を9月17日(学事暦の提出期限)までに提出のこと。 後期は基本教材2のレポート課題2編を1月12日(学事暦の提出期限)までに提出のこと。 前後期ともに早めにテーマの選定から、関連文献の選び方、章立てや草稿についてできるだけ早めに担当者とのやり取りをはじめ、初稿は前後期ともに提出期限の2週間前までに提出のこと。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の理解、レポート課題選定および内容の妥当性を評価。
	観察記録	20%	レポート作成に向けての課題の取り組み方やその課題解決への積極性などを評価。
履修者への要望	<p>履修者は積極的に課題に取り組んでほしい。基本教材を精読することはもちろんのこと、基本教材以外の関連文献も、より多く参照し、精読した上でレポートを作成してほしい。このレポートをステップとして修士論文作成に取り組めるようにしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 瀬川昌久、西沢晴彦編訳 教材名： 『中国文化人類学リーディングス』（風響社、2006年） ISBN4-89489-041-0 3,000円＋税
	本教材は中国における文化人類学研究で重要であると考えられている論考をまとめたものである。ラドクリフ＝ブラウン、レイモンド・ファース、費孝通、マリノフスキー、フリードマン、スキナー、林耀華、エブリー、ワトソン、陳其南、ウォード、ハレルといった錚々とした先達の論考が掲載されている。
参考図書	末成道男編『中国文化人類学解題』（東京大学出版会、1995年）ISBN978-4-13-056046-7 末成道男・曾士才編『世界の先住民族—ファースト・ピープルズの現在 01 東アジア』（明石書店2005年）
履修上のポイント	序論やあとがきもしっかりと精読し、さらに各論考を通読すること。その上でそれぞれの論考を一編あるいは複数精読し、中国における文化人類学の研究の動向や問題点を把握し、考察すること。また各論考末に挙げられている参考文献も適宜参照して考察を進めてほしい。
レポート課題 1	中国における文化人類学研究の動向と課題について(その1) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。
レポート課題 2	中国における文化人類学研究の動向と課題について(その2) 留意点： レポートのテーマは各自が設定すること。テーマは教材内の各論考を参考にして設定し、考察すること。レポート課題1とは別にテーマを設定すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 川野明正著 教材名： 『雲南の歴史—アジア十字路に交錯する多民族世界』（白水社、2013年） ISBN:978-4-86398-118-8 1800円＋税
	本教材は漢族と「少数民族」が混在雑居する中国雲南に関する歴史を簡潔にまとめたものである。教材の中では歴史のみならず、「少数民族」の文化や社会についても言及している。
参考図書	石島紀之著『雲南と近代中国—周辺の見点から』（青木書店、2004年）ISBN4-250-20405-7
履修上のポイント	本教材を精読した上で、巻末にあげられている参考文献を参照し、雲南省に居住する「少数民族」の歴史や雲南省の歴史について理解を深めて、考察を進めてほしい。雲南省のさまざまな民族の文化、社会、歴史の多様性、複雑性や外部世界とのつながりを考えた上で、レポートを作成してほしい。
レポート課題 1	雲南省の「少数民族」の歴史について 留意点： 雲南省の「少数民族」の一つを取り上げ、その歴史をレポートすること。もちろん教材以外の多くの参考文献を参照しつつレポートを作成すること。
レポート課題 2	雲南省のさまざまな時代の状況について 留意点： 雲南省の古代から現代までの状況について、一時代をピックアップしてレポートすること。例えば古代の「滇国」、「爨氏の時代」「南詔」、「大理」、元代、明代、清代、近代などをテーマとして取り上げてレポートを作成すること。

基本教材 1

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(序論を読み込む)
第 3 回	教材の学修(I～IIを読み込む)
第 4 回	教材の学修(III～IVを読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(序論を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(I～IIを再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(III～IVを再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	本科目の課題の理解と教材の学修の準備
第 2 回	教材の学修(「はじめに」を読み込む)
第 3 回	教材の学修(「概説 雲南の地理と民族」を読み込む)
第 4 回	教材の学修(「本編 雲南の歴史」を読み込む)
第 5 回	レポート課題 1 の作成(草稿)
第 6 回	レポート課題 1 の作成(初稿の完成)
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿の作成
第 9 回	教材の学修(「はじめに」を再び読み込む)
第 10 回	教材の学修(「概説 雲南の地理と民族」を再び読み込む)
第 11 回	教材の学修(「本編 雲南の歴史」を再び読み込む)
第 12 回	レポート課題 2 の作成(草稿)
第 13 回	レポート課題 2 の作成(初稿の完成)
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導に対しての修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿の作成